

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金358-13		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JigyosyoCd=0171700198-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 3 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今金町は人口6000人弱で豊かな自然と観光資源に恵まれ、福祉の町づくりを展開しています。運営者は会社経営ですが施設長と共に福祉に対する強い思いとビジョンを持ち、利用者へのサービス向上のために内外の研修や職員の育成に理解を示し、資格取得に挑戦する職員も増えています。また、施設長は長い間福祉の現場を経験し、利用者により寄り添った眼差しは熱く、尊厳を基盤とするケアの姿勢から職員は学びを得て日々研鑽しています。冬季間の外出不足には、隣接する小規模事業所を訪れるなどして交流を図っています。2階の地域交流広場（行政の予防委託）では、家族や地域住民の介護予防教室が開催され、介護保険などの相談も行い地域から頼られ理解を得ています。町の中心に3事業所が位置し、利用者や家族、地域住民との相互間の交流やホームの活性化にもつながり、今後に期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念を職員全員で見直しをした。毎月の職員会議の場で復唱している。	理念は地域の中で「その人らしい生き方」「穏やかで安心した生活」が出来るように全員でミーティング時に復唱し、理念に沿ったケア提供が出来ているか確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すえひろ夏祭りを開催しご近所の方々にも参加していただいている。町の行事へ参加したり見学へ出かけています。地域の方々の慰問を受けています。	地域の方々によるホームへの訪問としては、ボランティアの慰問で歌や民謡を披露して頂くほか、園児のお遊戯、高校生がかかるた等を通し、利用者と楽しまれています。ホームと地域の相互の行事参加で利用者の交流が広がっています。来客の多いホームです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流広場すえひろを開催し、そこで認知症サポーター養成講座など、色々なテーマを設けて地域の方々との交流の場づくりをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営や日々の様子、外部評価の結果などを報告し、助言をいただいたり、終末期ケアや近隣住民の避難協力などについて課題をいただいています。すえひろ夏祭りや地域交流広場にも参加をしています。	運営推進会議においては予め議題を設定し、会議の充実を図っています。今後、家族や利用者の参加の工夫、ホーム独自の開催、家族の行事参加での開催などで多様な意見交換、議論の場として取り組みを考えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町保健福祉課や社会福祉協議会、地域包括支援センターとは、日頃からホームの様子や運営の実態を伝えながら課題を共有し、相談や指導を常に受ける関係づくりを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加しています。研修の報告をしながら職員同士で見直しをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	職員は「身体拘束はあってはならない」との強い思いを持って日々のケアに当たり、研修や学習を重ね、周知徹底を図っています。ケアの中で不適切な言葉かけがあった場合にはその場で注意し合える関係も出来ています。日中玄関は施錠せず自由な暮らしを支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、研修内容の報告をしながら理解を深めている。職員同士がコミュニケーションを取りながら虐待防止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加をし理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者と管理者が立会い、十分な説明を行っています。利用者や家族の希望や不安などを共有するようコミュニケーションを図ることを大切にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろからコミュニケーションを図るよう努めている。家族会などで意見交換をし、訴えに対しては職員会議等で改善するように取り組んでいる。苦情・相談ポストを設置している。	家族とは来訪時や広報発行の際、要望を取り入れるなど意見交換の場を多く持っています。表出された意見や要望は職員会議で検討し、運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションをとり、職員からの意見や要望を聞く環境づくりに努めている。職員会議や管理職会議での提案や意見交換を行っている。	運営者はホームの体制などを把握し、送迎や困りごとに手を差し伸べています。また、施設長も永年の福祉の経験を活かし、仕事上の相談や職場の全体像を把握し、職場環境を整えています。個人面談シートも作成し活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とのコミュニケーションを図っている。介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得にも積極的である。職員親睦会で職員間のコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に外部研修に参加できる環境づくりに努めています。職員においても自らの職務年数と技術に応じ、各種資格の取得に積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の介護施設職員で行っている「としべつ道場」へ参加し勉強会や職員間の交流をしている。他のグループホームとも職員同士で交流や情報交換を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ自然体で、本人の一番不安な思いを安心に変えるようにコミュニケーションをとっています。家族ともコミュニケーションを図り協力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	機会あるごとにコミュニケーションをとって、家族の不安や要望を受け止め、安心できる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や状況をしっかりと把握することで、最も必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食事の準備や洗濯物たたみ等、一緒に過ごしています。昔の歌や昔話、四季の行事などを一緒に楽しんでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や夏祭りなどのホームの行事に参加していたり、気軽に訪問していただける雰囲気づくりと信頼関係づくりを大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の面会、行き付けの床屋、かかりつけ医など馴染みの方との関係を大切にしています。友人や家族へ年賀状を送っています。	利用者の自宅を見に行き、懐かしんで涙を拭ったり、安心した様子が見られることもあります。また、お寺参りや近隣の海、山に出かけ、楽しかった思い出に職員が耳を傾ける事もあります。利用者の意向を把握し、家族と連携して支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況によっては職員が関わりながら会話やゲームを楽しめるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もご家族から様子をうかがったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にセンター方式を使用し、本人の希望や意向を受け止めながら、職員全員で共有している。	日頃の会話の中で昔の話をしながら思いや意向を伺っています。また、センター方式の利用で本人の意向を受け止め、職員全員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話から昔の話などを聞いたり、家族からこれまでの暮らしぶりを伺って、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックなどひとり一人と関わる時間を持ちながら、気づきなどがあれば記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、本人や家族の思いを取り入れると共に、3ヶ月、6ヶ月毎のプランの見直しも職員で話し合いながら行っている。	介護計画は評価や見直しの前に本人や家族の意向を伺い、職員会議において気づき等を話し合い、作成されています。ケアマネージャーに一任された場合でもプラン作成前、作成途中、完成時にも連絡を取り説明しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	病院受診の結果や普段の変化、日頃の気づきなどは、伝達ノートや日誌、個人記録に記入し、職員間での情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせ、最善の支援をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が民謡・紙芝居・クリスマスなど慰問にきてくれて利用者を楽しませてくれます。消防署の協力をいただき利用者も避難訓練に参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の病院の馴染みの医師に定期受診をしている。ホームの協力医療機関としてお願いをしている。歯科医師による定期訪問健診を受けている。	ホームの協力医療機関が馴染みのかかりつけ医になっています。歯科医も定期的に訪問健診を行っています。他科受診には職員が同行し、受診後は家族に報告し、状況を職員と共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや気づきなど利用者の状態を看護師と共有し、相談をしながら受診などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地元の病院は定期受診などで日頃から情報交換しており、入退院時にも病院の担当者と情報の申し送りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談、話し合いを繰り返し、主治医へも相談をしながら、穏やかに過ごせる支援に努めている。	重度化や終末期の対応はその都度、本人の状態や家族の意向に沿った支援をしています。地域性から、看取りの医療支援が整わず、経口摂取が不可能になった時点で医療に繋がっています。職員は必要時に備え、看取りの研修や学習会は継続しています。	本人や家族の要望から医療との連携でぎりぎりまでホームでの生活を支援しています。重度化の指針を時間をかけて検討していますが完成に至っていません。指針が整備され、利用開始時に本人や家族に説明されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力をいただいて応急処置研修会を実施している。看護職員と急変時の対応策などの情報交換をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をいただいて昼間想定と夜間想定避難訓練を年2回実施している。近隣住民にも避難訓練に参加協力をいただいている。	避難訓練は消防署の協力の下、地域住民も参加され、定期的の実施されています。停電時の発電機が用意されているほか、断水時には地下水利用や避難経路についても話し合い、備蓄品も整っています。また、ホーム内の防災点検も定期的に行われています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で話し合い、意識をもって尊厳ある対応に努めている。	職員は常に利用者の尊厳ある対応を話し合い、本人の気持ちを大切にさり気ないケアを心がけ、自己決定し易い言葉かけに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イエス・ノーの質問ではなく本人からやりたいことを発言できる、また、仕草や言葉の内容からもその人の思いを受け止められるコミュニケーションの取り方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアに取り組み、その人の希望を大切にその人のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの床屋へ出かけたり、美容師のボランティアも来てくれています。服装やお化粧もその人の好みにできるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおしぼりづくり、食器の後片付けなどその人のできる力の範囲でお手伝いをしています。普段のメニューにも好みを聞いたり、行事の時には好物を用意したり出前を注文したりしています。	食事は利用者の好みや馴染みの食材で職員が調理し、利用者も野菜の下ごしらえや後片付けに参加しています。食事中には童謡、民謡、などのBGMを流し、職員も同じテーブルに着き、話を盛り上げるなどして楽しい一時となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はチェック表に記入している。食事の形状もひとり一人に合わせて工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に声掛けをしながら口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを掴み、声掛けや誘導をして、トイレで行う排泄に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、出来る限り自力で排泄できるよう支援しています。排泄用品の交換に当たっても自尊心や羞恥心、不安を軽減するよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し状況把握をしている。水分補給や食物に配慮している。下剤の使用も調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人の体調を把握しながら、希望に添ったタイミングで、気持ち良く入浴してもらえるように心がけている。	入浴は個々の体調や要望に沿ったタイミングで支援しています。入浴を拒む場合には時間をずらしたり声かけを工夫したりして翌日に繋げるなど、恐怖心や不安感を理解した支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合った睡眠ができるように心がけています。各自の居室、ホールのソファや小上がりで休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって管理をし全職員と情報共有を図っている。飲み忘れや誤薬を防ぐための見守りや介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをしてもらうことで個々に役割を持ってもらっている。歌を歌ったりカルタなどのゲームや散歩に出かけるなど、楽しみや気分転換ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム前の遊歩道を散歩をしたり、日光浴をしたりしています。季節に合わせて花見などに出かけています。秋のくだもの狩りには家族にも参加していただいています。	毎年、果物狩りを実施し、家族と寄り添う利用者の嬉しそうに安心して様子は職員の励みになっています。日常的にホーム前の公園の散歩で季節の花を見て地域住民との関わりなどを楽しんでいます。買い物、ドライブで利用者の懐かしむ海や山にも出かける支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談をしながら、本人がお金を持ち、病院や買物の支払いができるようし、職員が出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親しい人からの電話で、耳が遠い方には職員が関わって、会話ができるよう支援している。年賀状を出すお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節の飾りや利用者の写真を飾っています。部屋の温度や湿度、テレビの音や照明などに配慮しています。	リビングの食卓には、さり気なく花が飾られ、違和感なく洗濯物も干され冬期間の乾燥を防いで家庭的な空間になっています。廊下には行事の写真が賑やかに貼られ、歩行練習時になると利用者と職員の話題を提供しています。利用者は日中リビングのソファや食卓の椅子に座って利用者同士でおしゃべりを楽しんだり、職員に寄り添うなどして寛ぎ、穏やかに過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや小上がり、食卓などを思い思いに使えるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具や馴染みの物を置いて、本人が安心できる環境づくりに努めている。	居室の入り口には木の温もりある表札で自室を認識しています。個々にタンスや椅子、テーブル、テレビなどを持ち込み、写真を飾ったり小物を身近に整えて安心できる環境となっています。クローゼットは備え付けられ、日用品や衣類を家族や職員と一緒に整理し、利用者は居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋に名札を付け見やすい工夫をしたり、移動の助けになるように手すりを配置して、安心安全な環境づくりに努めている。		